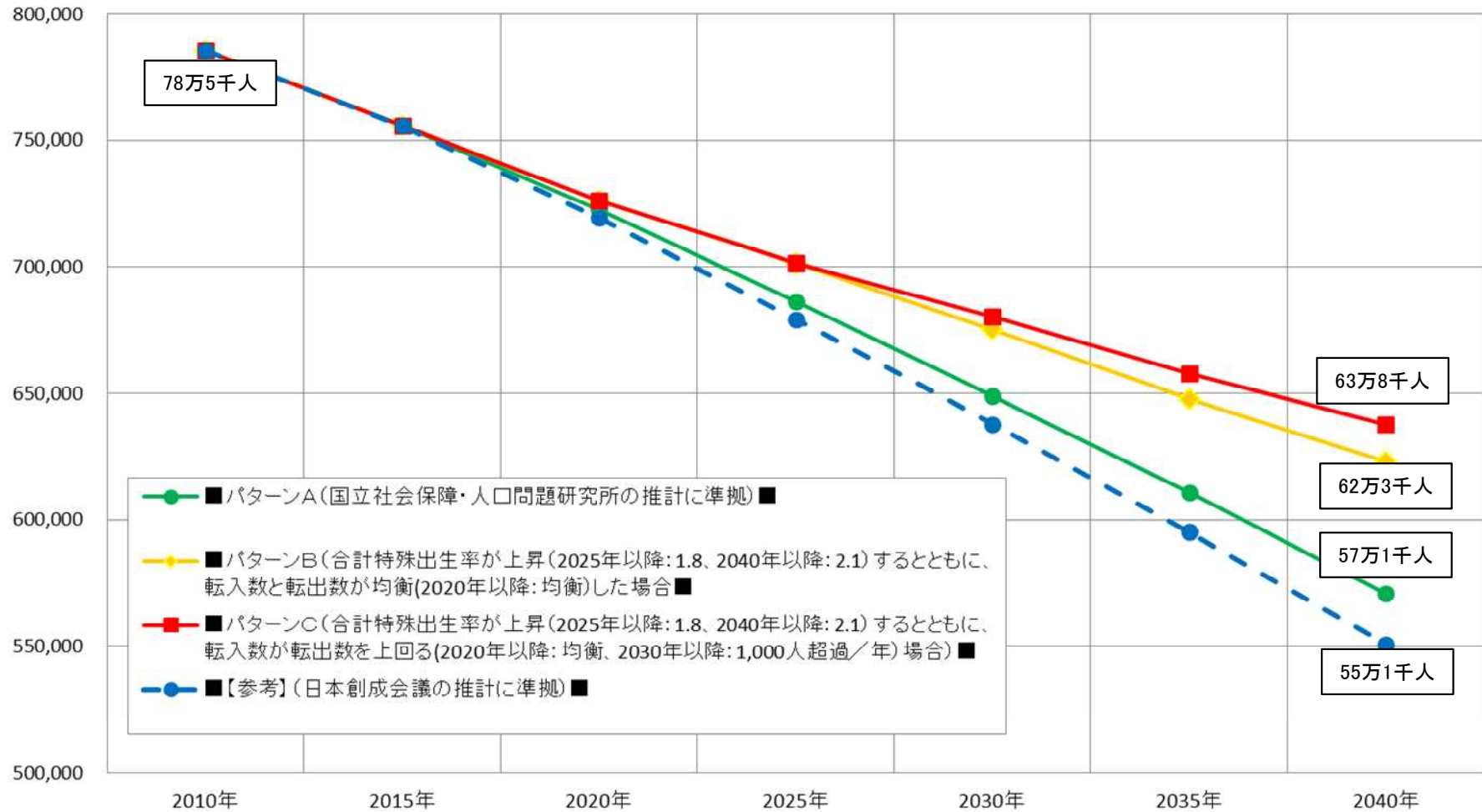


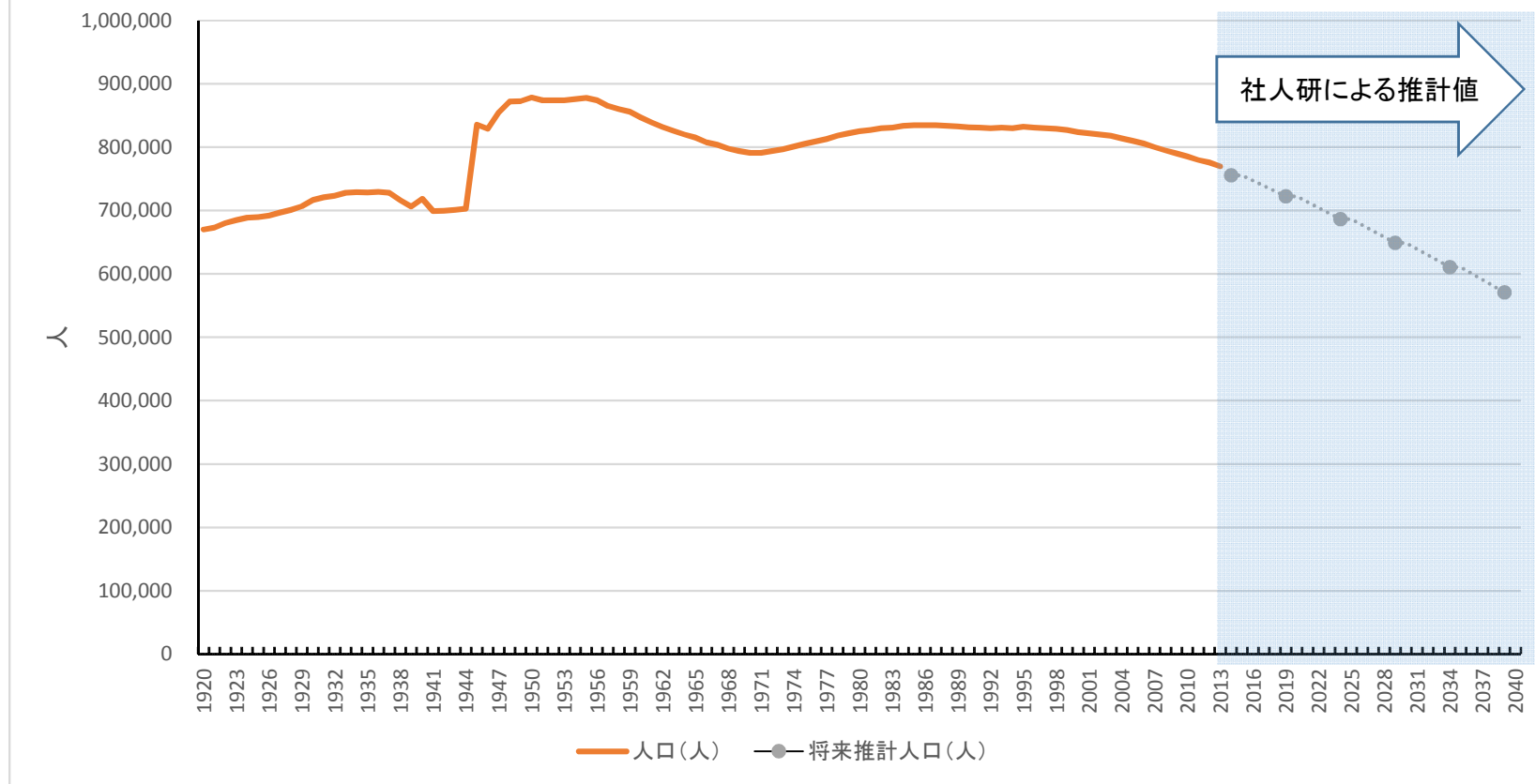
「人口ビジョン」策定への基礎作業として将来人口を推計したもの  
 (今後、具体的な施策の検討と併せて将来展望を提示)

### 徳島県の総人口の推計(パターンA、パターンB、パターンC)

(人)

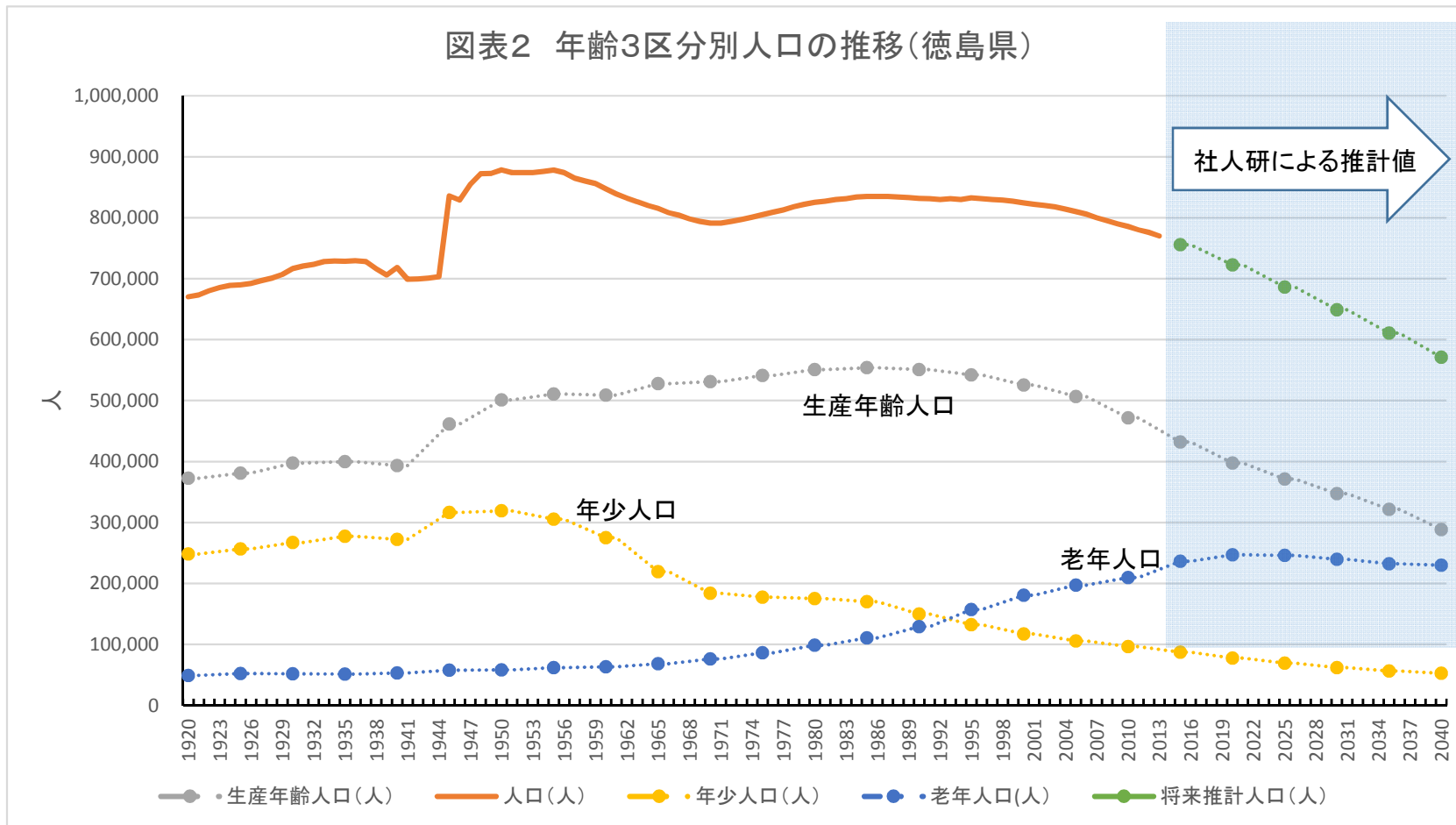


図表1 総人口の推移(徳島県)



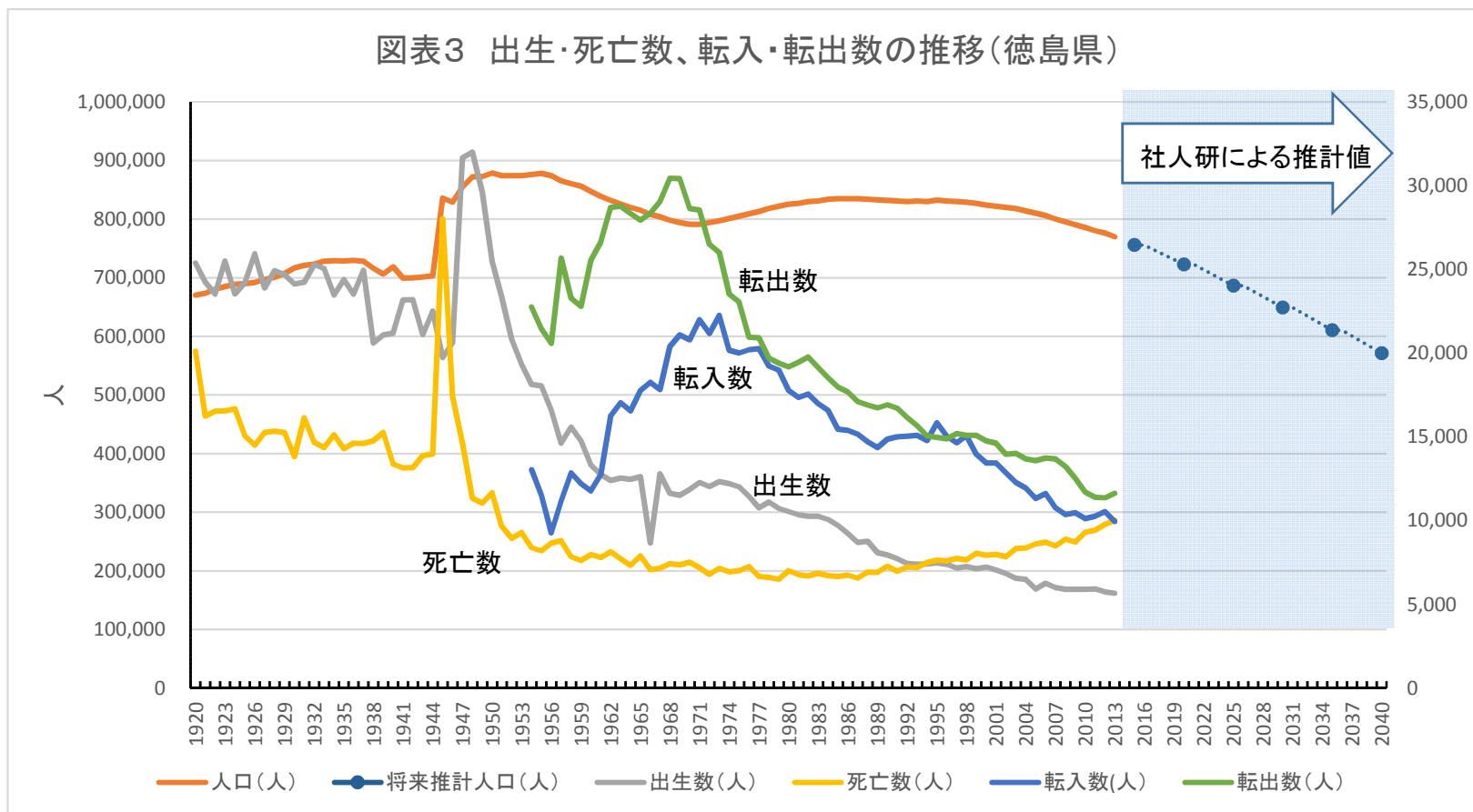
- 本県人口のピークは、1950(昭和25)年の87万9千人。1948(昭和23)年から1956(昭和31)年の間は87万人台で推移するが、その後、減少に転じ、1970(昭和45)年前後には80万人を割り込むまで減少した。
- その後、緩やかに回復し、1985(昭和60)年には83万5千人まで再び増加。1980(昭和55)年から1999(平成11)年までの20年間は約83万人の水準で推移したが、その後、減少が進行し、2007(平成19)年には再び80万人を割り込み、2013(平成25)年の推計値では77万人にまで減少。
- 国立社会保障・人口問題研究所(以後、「社人研」と記載)の推計では、減少傾向は今後も続き、2040年には57万1千人まで減少するとされている。

図表2 年齢3区分別人口の推移(徳島県)



- 「生産年齢人口(15~64歳)」は、1985(昭和60)年の55万4千人をピークに減少に転じ、2010(平成22)年には47万2千人まで減少。社人研の推計では、減少傾向はさらに強まり、2040年には28万9千人まで減少するとされている。
- 「年少人口(14歳以下)」は、1955(昭和30)年頃から減少傾向となり、1970年から1985年の間は17~18万人の水準を維持するが、さらに減少は進行し、2010(平成22)年には9万7千人まで減少。社人研の推計では、減少傾向は継続し、2040年には5万3千人まで減少するとされている。
- 「老年人口(65歳以上)」は、1985(昭和60)年に11万1千人と10万人を超過。その後も増加を続け、2010(平成22)年には21万人にまで増加。社人研の推計では、2020年頃までは増加傾向にあり、24万7千人に達するとされているが、その後、緩やかな減少に転じ、2040年には23万人まで減少するとされている。

図表3 出生・死亡数、転入・転出数の推移(徳島県)



- 出生数は、1948(昭和23)年の3万2千人をピークに急速に減少。1960年頃から1975年頃までは、「ひのえうま」である1966(昭和41)年を除き、1万2千人前後の水準を維持するが、その後さらに減少し、2008(平成20)年からは5千人台で推移している。
- 死亡数は、1958(昭和33)年から2004(平成16)年の間は7~8千人の水準で推移するが、その後、増加傾向となり、2013(平成25)年には初めて1万人を超過。1994(平成6)年には死亡数が出生数を上回る「自然減」となり、その後、20年にわたり継続している。
- 転出数は、年によって増減はあるものの、総じて増加傾向にあったが、1968(昭和43)年の3万人をピークに減少傾向に転じた。
- 転入数は、年によって増減はあるものの、総じて増加傾向にあったが、転出数よりもやや遅い1973(昭和48)年の2万2千人をピークに減少傾向に転じた。1995(平成7)年と1996(平成8)年には、転入数が転出数を上回る「社会増」となった。